

淡路中塗り土について

近畿壁材工業の社内勉強会一例

匠に役立つ社内勉強会レポート

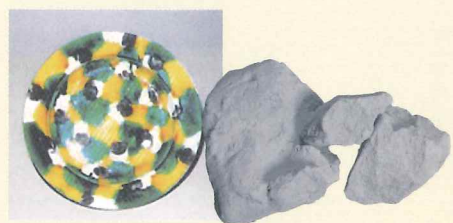
左官材料メーカーとして材料を販売する立場から伝統左官工法について毎月勉強会を行い、近畿壁材工業(株)の知見によりそれら伝統工法に使われる材料についてまとめている事例集で施工を保障するものではありません。

淡路土の歴史

淡路土の歴史はそれを原料として活用が始まった「淡路瓦」の歴史ともいえます。淡路瓦は、今から400年ほど前、慶長15年(1610年)頃ま、姫路城主池田輝政の三男忠雄が淡路島を所領として、成山城築城を決めました。その際に播州瓦の名工清水理兵衛を呼び寄せ瓦を焼かせたのが始まりです。淡路島には瓦作りに適した良質な粘土に恵まれ、この粘土が様々な分野で活用され、現在の(株)Danto(ダントータイル)の起源でもある1818年、賀集珉平が開窯した「珉平焼」(別名：伊賀焼・淡路焼)なども淡路土活用の代表です。



いぶしが美しい淡路瓦



珉平焼彩皿と淡路白土原土

「淡路島は珍しい島で、あっちこっちで違う色粘土が採れるんです。特定の地域で数種類の色粘土が採れる場所も全国的にはあまりあえいません、淡路の土は陶芸家にとって本当に魅力です。」 取材協力：百猿製陶所 陶芸家大前悟氏



淡路島の土で作られた優美な作品の数々

土壁用の淡路土

ほとんどが淡路瓦に使われる淡路土ですが、大正元年当社の創業者浜岡重吉が壁土(建材)としてこの淡路土を全国に販売する事業を始めました。当時の建築はほとんどが小舞荒壁で、内装の仕上げもほとんどが土物仕上げということもあり日本以外にも台湾や朝鮮へも運ばれていました。

戦後、高度成長期に入りモルタル工事が増える中、セメント用混和材として淡路浅黄土を利用することで安価で良好な饅伸びと保水性があることからセメント混和材として全国に流通するようになりました。

現在も淡路土は、伝統建築を継承するために淡路中塗り土や浅黄土、荒壁用粘土として日本の伝統建築における左官材料として全国各地で愛用されています。



下▼淡路土乾燥場
前：中塗り土 奥：浅黄土

上▲淡路土採土



左◀淡路土原土
下▼乾燥粉砕された粉土

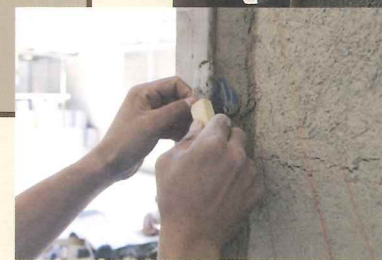
社内勉強会資料：淡路中塗り

チリ回り(布連打ち)

中塗り土施工にあたって伝統的なチリ回りについても経験しておく必要があるとして布連打ちを行った。

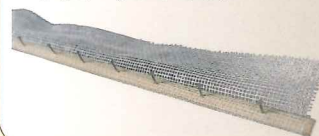
淡路中塗り土を使ってチリ回り用の材料の配合目安

淡路中塗り土	容積 1
珪砂 5号	容積 1.5
あくぬき藁すさ	容積 1



チリ回りに使う中塗り土は、収縮を抑えるために、砂の量を少し増やしたほうが作業性が良かった。

布連(のれん)



細く割った竹に3cm幅程度に切った寒冷紗を貼り付け等間隔に細い釘を打ち付けた材料。土壁の乾燥によるチリ隙を防止する。

ちりとんぼ(ひげこ)



布連同様に柱のチリ隙を防止する材料であるが、特に床柱や茶室などの丸柱に利用する。

淡路中塗り土の材料

今回使用した材料は、全て淡路島の素材を使用した。日本全国中塗り土の配合や材料は違うが、当社が準備できる出来る限りの素材を集め配合を検証してみた。すべて自然素材であり、糊等の配合はしていない。

淡路中塗り土(粘土)



淡路中塗り土は極めて小さな粘土粒子を多く含む土で、水を含むことで高い粘性と保水性を持ち、乾燥後の強度もありますが、乾燥収縮が大きく施工性も良くないことから他の材料との配合で調整が必要です。

淡路産山砂



淡路中塗り土とほぼ同じ場所で採れる左官砂です。大小さまざまな粒度が含まれ、乾燥時に起こる収縮を防ぎます。

淡路稲藁



淡路島産の稲藁を2cm程度にカットして土と混ぜます。中塗りの亀裂防止はもちろん、鏝離れ、鏝すべりを良好にし、粘性の強い淡路中塗り土の作業性を良好にします。

社内勉強会で検証した中塗り土の一例

淡路中塗り土の配合

淡路中塗り土には決まった配合が無く、大直し、通常の中塗り、中塗り仕舞などによっても配合が変わり、また塗り厚によっても配合が変わります。

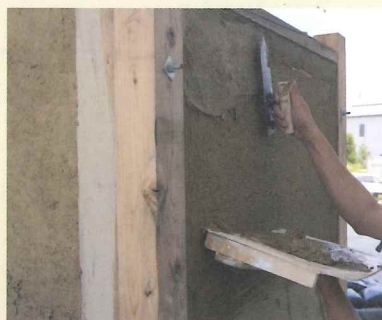
特に施工される左官職人の好みによっても大きく変わるため、配合を決定することは出来ないが、下記3種類の配合で検証を行った。

※原材料が自然素材でもあり、乾燥などによる重量と現場での測りなどが無いことを考慮し容積比で計測した。



	淡路中塗り土	淡路砂 (粒度調整)	まるなかすさ
淡路中塗り配合 A	1	1	1
淡路中塗り配合 B	1	1.5	1
淡路中塗り配合 C	1	2	1

容積比



10mm厚で一度に施工出来、ダレや亀裂が無い配合を検討した。特に中塗り仕舞での要望が高いと考え、中塗り土で仕上げられる配合を検討してみた。

淡路中塗り配合 A

少し固練りにはなるが、10mm程度なら1度に塗り付けることは可能であった。粘性が高くこれ以上の塗厚では施工が困難になると思われる。

淡路中塗り配合 B

施工性は悪くは無いが、少しさくい感じもある。大直しや通常の中塗りには問題ないように思われるが、中塗り仕舞となると少し表面が粗くなる。

淡路中塗り配合 C

厚付けを行うには良好な材料であるが、若干の饅すべりが悪く、水引も早く感じる。乾燥後の小ひびなどの問題も無いが、仕上げには表面強度も弱く適さないように感じる。また、次の工程の水引も早くなる。



重土屋

本淡路



配合中塗り土 本淡路 (ほんあわじ)

長年の淡路中塗り土販売の実績とノウハウを活かし、多くの左官職人のご意見と社内での検証を繰り返し、地元淡路島の素材を活かした本格派中塗り仕上げ材料を作りました。本淡路を通じ日本の伝統「土壁」をこれからも継承してまいります。